

REPORT-1

GCOE国際シンポジウム

International Joint Symposium on "Cell Fate Regulation Research: Stem cells and organogenesis" に参加して

損傷修復分野 立石 智

11月26日から27日にかけて熊本大学GCOE(細胞系譜制御研究)とオーストラリアのMonash大学が参加して、GCOE国際シンポジウムが発生医学研究所1階にて開催されました。Monash大学からは8名の研究者が発表されました。最初にオーストラリアのQueensland大学、熊本GCOE、京都大学の研究者が、腎臓発生に関して発表しました。参加した研究者からは、「腎臓発生に関する研究発表を国内で機会に限られているため、今回のシンポジウムはとてました。午後からはヒトES細胞、組織幹細胞の再生医学への応用の可能性、臓器や



脳、神経への分化に関する研究の発表が行われました。オーストラリアのMonash大学からの発表も多く、幹細胞に対して遺伝子組換えを行い再生医学への応用の可能性を高める試みが強く印象に残りました。ポスター会場では、オーストラリア人の気風からでしょうか、とてもうちけた雰囲気の中で研究を含めた話をする事ができ、多めに親交を深めることができました。



REPORT-2

熊本大学「知のフロンティア講座」

「60兆の細胞が織りなす造形美 — ヒトのからだの不思議」の美とは？

発生医学研究所 技術職員 関 丘



当日の講演を聞き逃した方は、講演内容をまとめたブックレットが熊日から出版されているので、書店で手に取ってみて下さい。

聴衆が来た、それもたくさん。正直な感想です。熊本大学の「知のフロンティア」シリーズの一つとして、発生医学研究所の小椋光教授が講演されました。雨模様にもかかわらずホール全体に聴衆が始まりを待っていたのは、生命科学への興味か所長の人徳か。講演が始まると熱心にノートを取る姿も散見された。話はノーベル賞受賞のブラックバーン博士を枕に羊のドリー、そしてクローン作製、発生医学研究所の各分野紹介と続きながら発生医学研究の現状を率直に語られ、現実的に期待される面を紹介して行く。生命、健康という身近な問題のためか、最後までほとんどの聴衆が聞き入っていた。ただ一人、真正面に陣取って最後まで熟睡していたご婦人はご愛嬌。最後は老化と高齢化社会の問題、タンパク質の変性からプリオン、そして遺伝病への大展開、あまりの大技について行けない方もいたかと思うが、そこは紹介された書「眠れない一族」を一読すれば納得でしょう。講演の題名にある造形美=発生の美と勝手に解釈していますが、この美についてもう少し聞きたかったのが心残りでした。

学生会ホームページ&ブログ紹介

発生研HPのトップにある学生会のバナーをクリック! 学生会のホームページでは学生会についての紹介や活動内容、これまでのイベントレポートなどを紹介しています。また学生会メンバーによるブログにもリンクしており、発生研での研究生活の一部始終を学生の目線からそれぞれ紹介しています。



学内だけでなく、学外の方やこれから大学院進学を考える学生さんにもぜひ一度のぞいてみてください。

発生研学生会ページ <http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/ais/index.html>
発生研学生会ブログ <http://ameblo.jp/ais-imeg/>

学生会は楽しい交流イベントを今後も企画していきます。



私は、他の研究室の方々と接する機会が少なかったのですが、スポーツを通して和やかな雰囲気でも多くの方々と交流することができ、とても楽しかったです。ぜひ、来年のソフトバレー大会も参加したいと思います。

薬学部4年 上原 仁

次号予告 平成23年度大学院入試説明会・見学会報告
IMEG REPORTS 学生会の活動 ほか



IMEG REPORTS



IMEG NEWS LETTER

2010春号

2010. Apr Vol.11

発行/熊本大学発生医学研究所

T8600811 熊本本荘2-2-1 URL <http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/>
TEL & FAX 096-979-5786 E-mail imeg@kumamoto-u.ac.jp

デザイン/印刷/スキャナ「駿」

生命のメカニズムを探り、若き研究者を育てる

IMEG NEWS LETTER

熊本大学発生医学研究所[アイメグ]

Institute of Molecular Embryology and Genetics

2010
春号
Vol.11

CONTENTS

1 ZOOM UP IMEG

大学院入試説明会・見学会のお知らせ

2.3 INFORMATION

新所長・副所長が就任しました!

INFORMATION 男女共同参画

女性だからと、夢をあきらめる必要はないんです

VIVA! IMEG

「本九祭」2009

見て触れて身近に感じた発生医学

in 本九祭2009

4 IMEG REPORTS

GCOE国際シンポジウム
熊本大学「知のフロンティア講座」

VIVA! IMEG

学生会ホームページ開設
次号予告

ZOOM UP IMEG

求む、若き情熱とエネルギー!
大学院入試説明会・見学会のお知らせ

IPS細胞が再生医療の花形として注目されていることは知っていても、熊大に発生医学研究所があることは意外に知られていない。君たちの身近にそんな研究所がある。ちょっと発生研を覗いてみないか?

発生研では、来たる4月24日(土)に、大学院入試説明会・見学会を開催します。生命科学・医学・薬学系の大学院への進学を考えている理系の学生の皆さん、是非発生研の研究内容・研究環境をその目で確かめてください。発生研は、発生医学の全国共同研究拠点に認定され、グローバルCOEプログラム(国際的に卓越した教育研究拠点)の中核組織にもなっています。大学院医学教育部博士課程には「発生・再生医学研究者育成コース」が設けられています。発生研は、国際舞台で活躍する研究者の育成、そして男女共同参画の観点から女性研究者の育成に積極的に取り組んでいます。学生の組織「発生研学生会」もさまざまな活動をしています。



日時 4月24日(土) 11:00~16:00
場所 熊本大学発生医学研究所(熊本本荘2-2-1)
説明会 12:00~14:00(1階カンファレンス室): 研究所の概要・特色、研究内容、大学院の仕組み・入試などの説明。「発生研パンフレット」の配付。学生会の紹介。説明会には軽食を用意します。
見学会 11:00~16:00(各分野): 説明会の前後に各分野を自由見学できます。

新所長・副所長が就任しました!

平成22年度の新所長が決定。新たに副所長も配置。
より充実した体制のもと、これからも生命科学の発展を目指します。



所長
中尾 光善 教授

「発生研」原点からサイエンスのArtを創出

熊本大学発生医学研究所は、2000年にスタートした発生医学研究センターを基礎としています。今までに、学内外で「発生研」という親しい名前も定着してきました。本研究所には、遡れば、1939年の体質医学を原点にして、遺伝医学、遺伝発生医学、そして発生医学につながるオリジナルな学問の歴史があります。数々の教育・研究の成果はもとより、多くの優れた学者が国内外に輩出されてきたことに大きな感銘があります。

私達の身体を構成する200種類以上の細胞がどのように増殖し分化して、組織や器官を作っていくのか。この自然にプログラムされた仕組みを明らかにし、病気の解明や治療へと進めるのが発生医学です。再生医療は、発生のメカニズムを用いて、必要な細胞や組織を作製することになります。いかにヒトの健康を増進できるか、いかに将来を担う次世代(子ども)を育成するかに取り組むことで、学問と社会に貢献するのが発生研の役割です。

サイエンスは、芸術(Art)とよく似ています。形のないところから、直感と情熱をもって、有形のものを作っていきます。その原点は、「なぜ」や「面白そう」や「できたらいいな」、そして、思考し発見することが「好き」で「楽しむ」こと。多くの人との議論で視野も広くなります。そして、難物と真に向かい合うことで、新しい学問が拓けます。発生研の構成員一同、努力を積み重ねてまいります。ご支援とご理解をお願いいたします。



副所長
西中村 隆一 教授

闘う科学者であれ

科学者はスポーツ選手と同じで、いわば「世界ランキング」のように常に自分の実力を評価されます。自分ではいい研究をしているのに、なぜ認められないのかと行き詰まりを感じるがありますが、評価がまちがっていると拒絶するだけでは何も始まりません。評価に踊らされるのは論外ですが、他人の評価を一旦受け入れて、自分に何が足りないかを見極めた上で、常に闘う姿勢を持ち続けなければなりません。若手研究者がどんどん発表できる機会を作り、積極的に「立ち向かっていける」人材を育てなければならぬと考えています。

また、研究者は大学に残ることだけが道ではありません。自分の進む道が何もない砂漠のように見えても、そこを開拓していく気持ちが大切です。そして振り返ると、いつの間にか後ろに人が続いている。発生医学研究所から、そんなパイオニアとなれる人材が育っていくことを願っています。

女性だからと、夢をあきらめる必要はないんです

さまざまな支援制度を充実させ、男女共同参画を推進する発生研。全学における取り組みに加え、大学院生にも支援を行うなど、女性研究者が十分に能力を発揮できる環境を整えています。



腎臓発生分野
特定事業研究員
山口 泰華

現在、11カ月になる子どもを育てています。マウスの生殖細胞の発生機構の解明が研究テーマ。実験には時間がかかり、普通なら家に帰れないようなこともありますが、男女共同参画の支援制度で研究支援者を派遣してもらい、実験を代わってもらうことができます。また、実験を簡素化できる機械を購入してもらったことも助かりました。ラボの雰囲気も育児に理解があり、女性だからと夢をあきらめずに研究に取り組めるのが発生研だと思っています。



細胞医学分野
技術支援者
日野 裕子

実験の補助や試薬、消耗品の補充などの技術支援を行っています。現在、2歳になる子どもがいるのですが、熊本出身ではないので育児で頼れる人が近くにいません。病気や予防接種などで不規則に自分の仕事の手を止めることがありますが、研究支援の方が雇用されているので手伝ってもらえ、助かっています。発生研は、男性女性両方にとって、仕事と家庭を両立しやすい体制が整っていると思います。

VIVA!
IMEG
「本九祭」
2009

見て触れて身近に感じた発生医学

生殖発生分野 中田 翔子
多能性幹細胞分野 白木 伸明

in 本九祭2009



2009年10月31日(土)と11月1日(日)の二日間開催された本九祭では、発生医学研究所も共同企画で参加しました。毎年テーマを決めて展示企画・講演会を開催していますが、2009年のテーマは「見て触れてわかる『発生医学』」。発生医学研究所1階で行われた展示企画は、家族連れや高校生など連日100人を越える来場者で賑わいました。ショウジョウバエ・マウス・線虫・アフリカツメガエルなどの生きた動物の展示を行い、来訪者は初めて見る実験動物に興味津々でした。また、近年話題となっているES細胞やiPS細胞などの展示も行い、多くの方に細胞を観察していただきました。見学者からは「iPS細胞はどのようにして作るのか?」「いつごろ、臨床応用が可能なのか?」など様々な質問があり、関心の高さを改めて認識しました。

講演会では、「発生医学の共同研究拠点」としての活動の演題で研究所長の小椋先生、「男と女のからだの違い:生殖器のできた方から子宮内膜症まで」の演題で生殖発生分野教授の山田先生の講演が行われました。本企画では、普段見ることができない実験動物や細胞を実際に「見て、触れる」展示を楽しんでいただくことで、「発生医学」に対する興味と関心を喚起でき、私たちの研究を身近に感じてもらうことができました。

